RV run Ⅱ

取扱説明書

RVrun Ⅱを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

RV run Ⅱの特長

- ●ティルトと新方式リクライニングが選択可能
- ●無段階ティルト機構（座角０度～33度）
- ●無段階新方式リクライニング（背角85度～52度）
- ●背・座張り調節スリングシートによる張り調節
- ●外転サポート付きの座シートクッション
- ●座シート奥行き・フットサポート高さ・アームサポート高さ・押し手高さ調節式
- ●高圧スポーツ専用タイヤを採用
- ●後輪脱着式、キャンバー角 －3度
- ●後輪車軸位置（前後調節式）



目　次

- ● 安全にお使いいただくために……P1・2
- ● 各部の名称……P3
- ● 製品構成……P3
- ● オプション部品……P3
- ● 使用前点検……P3
- ● 各部の取り扱い……P4～P8
- ● 調節スリングシートついて……P9
- ● 車への積み下ろしなど、抱えるときの注意…P9
- ● お手入れ・メンテナンス……P9
- ● 車いすの取り扱い……P10
- ● 車への載せ降ろしの準備……P11～P12
- ● 仕　様……P13
- ● 説明図……P14

安全にお使いいただくために

本書記載事項以外の使用はしないでください。

⃠ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警 告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

⃠ 本人を乗せたまま放置しないでください。

⃠ はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。

⃠ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。

⃠ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。

⃠ エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）

⃠ 子供に操作させないでください。

⃠ 坂道での駐車はしないでください。
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）

⃠ 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。

⃠ 本人を座らせたままで、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。

❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
（身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。）

❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。

⃠ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。

⃠ 自動車の中では使用しないでください。車内で車いす・バギーにかかる様々な動き、負荷は予測ができないため、フレームの強度、安全面については保証いたしかねます。
（現時点においては、福祉車両等への車載について定められた基準がありません。明確な根拠がない状況では「安全」とは言い難いため、ご遠慮いただきますようお願いいたします。）

❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。

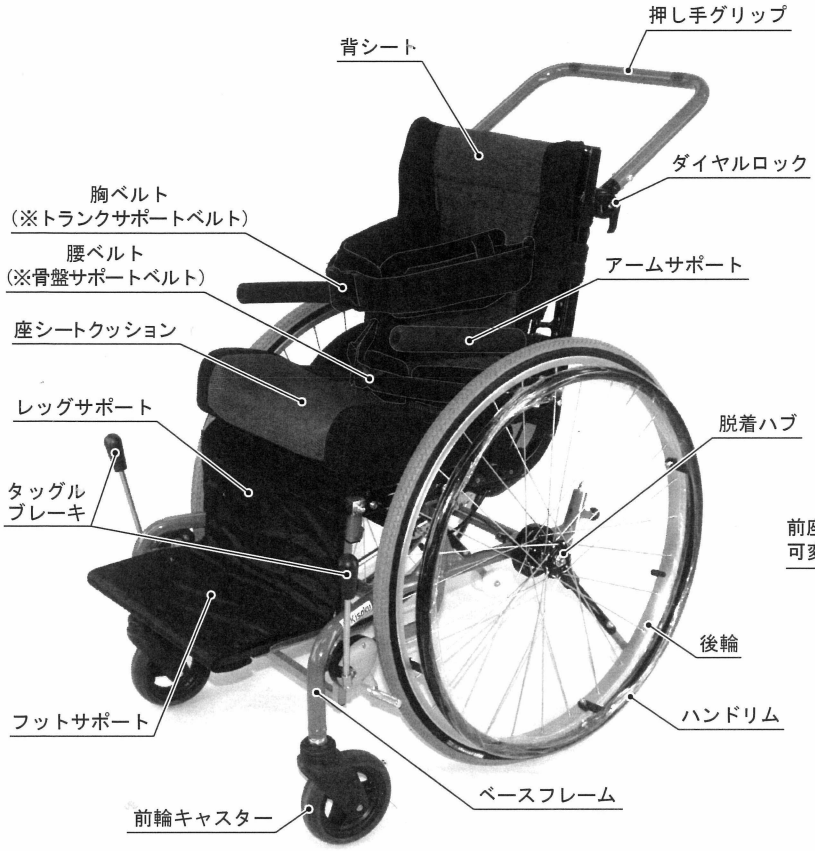
⃠ 改造や分解はしないでください。

●注意（使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。）

- 医師の処方で製作された場合
  - ⃠本人以外での使用はしないでください。
    （個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
  - ⃠処方目的以外での使用はしないでください。
- 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。
- エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドアなどの付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- 製品を持ち運ぶときは、指や手をはさまないようベースフレームなどの安定したところを注意して持つようにしてください。
- 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⃠折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⃠座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⃠二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⃠押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。状況によっては、急に後方に倒れることがあります。
- ⃠子供が背もたれなどにぶらさがらないようにしてください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- ⃠子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⃠保護者・介助者などが寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⃠調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⃠シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⃠気温差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⃠製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強いカや衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⃠水中での使用は絶対にしないでください。
- ⃠荷物等の運搬に使用しないでください。
- 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称





※印はオプション部品になります。

製品構成

		個　数
●基本フレーム		1
●調節スリングシート（背・座）		1
●レッグサポート		1
●フットサポート		1
●シートユニット	背シート	1
	座シートクッション	1
	胸ベルト	1
	腰ベルト	1

オプション部品

●延長用バックサポート
●キャリパーブレーキ
●トランクサポートベルト
●骨盤サポートベルト

使用前点検

◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。

◎脱着式後輪の車軸や転倒防止など、各部のロックが確実に効いているなど、正しく開いていることを確認してください。

◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。

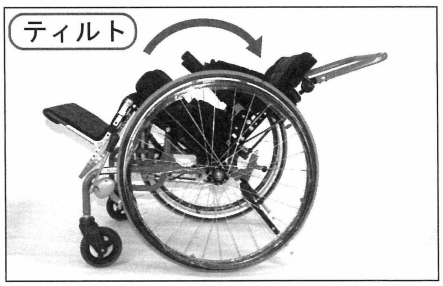
◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないこと、タイヤの空気が十分に入っていることをを確認してください。

◎メカロックが正常に作動することを確認してください。

各部の取り扱い

●ティルトレバーとリクライニングレバー

リクライニング用(ティルト用・背リク用)レバーは、無段階で調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック(角度固定)できます。



①ティルト式リクライニング（ティルト）
バックサポート～フットサポートまでが一体となって背座面角度一定のまま、リクライニングします。

②新方式リクライニング
バックサポートと座シート後部が一緒にリクライニングします。

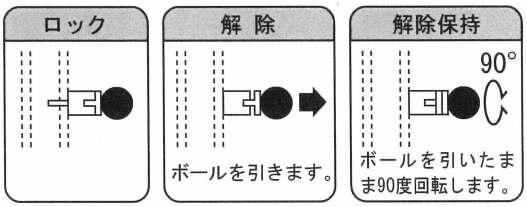


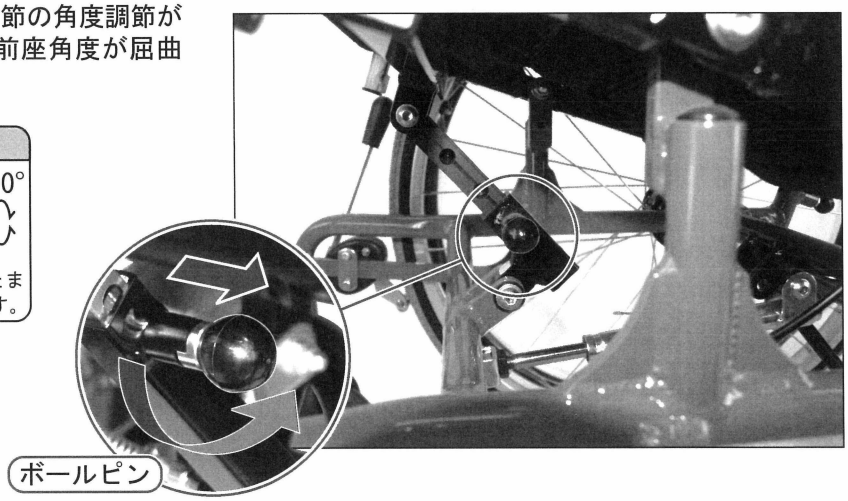


- リクライニング(ティルト)角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- リクライニング(ティルト)レバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- お子様には絶対に操作させないでください。

●前座角度可変について

使用者の身体状況、使用場面に応じて股関節の角度調節がおこなえます。座面下のボールピンにより前座角度が屈曲方向、伸展方向に設定できます。





●タッグルブレーキ

停車するとき、乗り降りのときに使用してください。
ブレーキレバーは後方に引くとロックがかかります。
ブレーキレバーが前方にある状態がロック解除になります。

- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は、停車中に動き出すことも考えられ危険です。空気の量が十分であればブレーキ位置の調整が必要です。すみやかに取り扱い業者にご相談ください。
- ブレーキをかけたままで走行しないでください。また走行時はロック解除を忘れないよう注意してください。

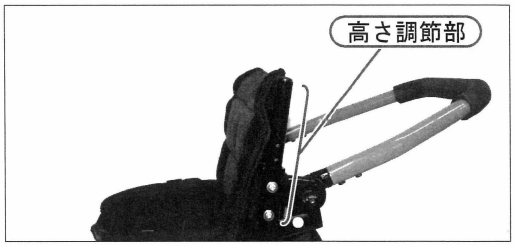
ブレーキがかかった状態



ブレーキを解除した状態

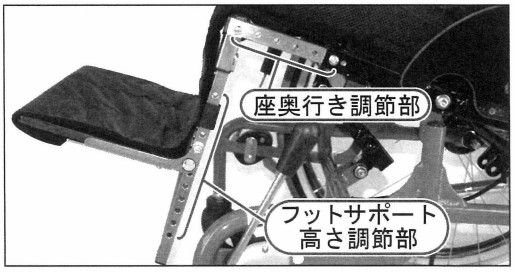


各部の取り扱い



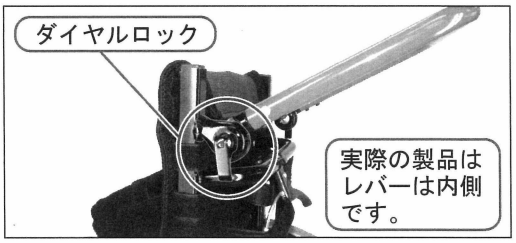
●バックサポートの高さ調節

成長変化に合わせて背(バックサポート)の高さ調節ができます。片側2本のボルト・ナットにより設定・固定されており、15mm間隔で調節がおこなえます。高さ変更をしたときは、一番上の背スリングベルトと背シートを貼り付けなおしてください。



●座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

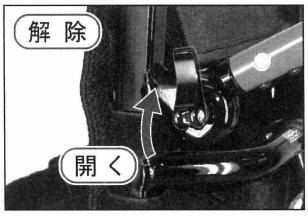
使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。ボルト・ナットにより固定・設定されています。座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節も同じく15mm間隔で調節できます。座の奥行きを伸ばしたときは、座クッションも前方へ取り付けてください。

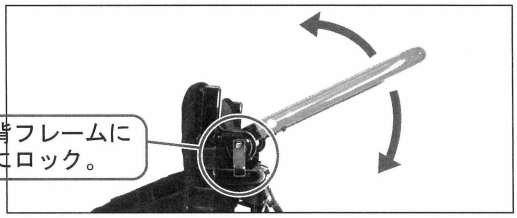


●高さ可変押し手グリップ

ティルト角によって、押しやすい高さに調節できる可変式の押し手グリップです。押し手グリップの付け根左右にあるクイックレバーを解除して(開いて)押し手の高さを変更したら、ダイヤルロックの刻みのかみ合うところで、クイックレバーをしっかりロックして(閉じて)ください。折りたたんだ際、さらにコンパクトにする場合にも操作してください。



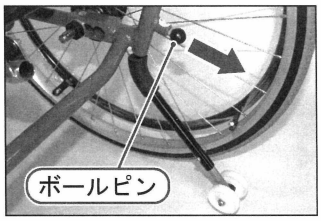


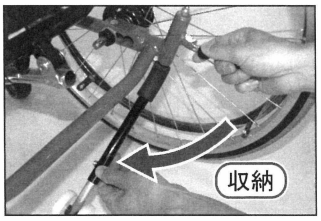


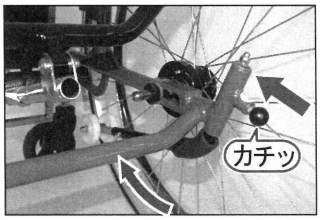
- 押し手の角度を変更したときは、クイックレバーのロック(左右)を確実におこなってください。クイックレバーのロックがゆるいと、押し手グリップが急に下がるなどして危険です。
- 子供がぶら下がったりしないよう注意してください。またかばんや荷物をかけないでください。
- クイックレバーをロックするときは、背フレームに添うようにしてください。前方や上方など飛び出る方向でロックしないでください。

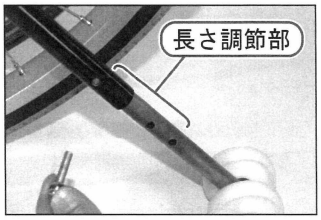
●転倒防止装置について

転倒防止装置は後方の安全をはかる装置です。後方にセットした(出した)状態が基本設定となります。
段差を乗り越える際は折りたたんで収納して、段差を越えたら再びセットしてください。セットまたは収納するときは、転倒防止の取り付け部にあるボールピンを操作して転倒防止本体を内側へ回転してください。前後まっすぐにむかう位置でボールピンが引っ込みロックがかかります。また、後輪の車軸位置によって、転倒防止が接地するバランスが異なります。後方安定性を高める場合は、転倒防止装置の長さを調節して伸ばした設定にしてください。日常のわずかな段差を乗り越えやすくする場合は、転倒防止を短めに設定してください。ボルト・ナットにより長さ調節がおこなえます。





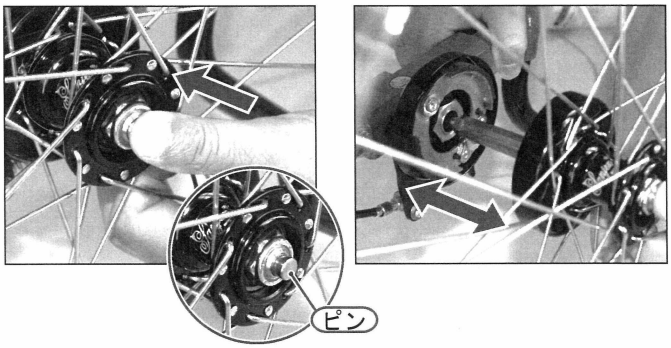




- 転倒防止を収納したままで使用しないでください。不意に後方に転倒する場合があり危険です。
- 転倒防止をセットしたら、ボールピンのロックが確実に効いていることを確認してください。
- お子様には絶対に操作させないでください。
- スロープから平坦な地面になる場所は、前輪キャスターと転倒防止のみが接地して後輪が地面から離れて浮いてしまうことも考えられます。スロープを走行する際は注意してください。

各部の取り扱い

●後輪の脱着について



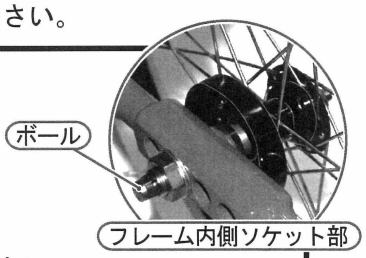
自動車に積むときなど、後輪を外してコンパクトにすることができます。

・外し方

ブレーキがかかっていないことを確認してください。後輪車輪の中央(ハブ)にあるピンを親指で押し込んだまま、外側へますっぐに引き抜いてください。抜き取る方向を車軸に沿ってまっすぐにしないと外れにくくなります。

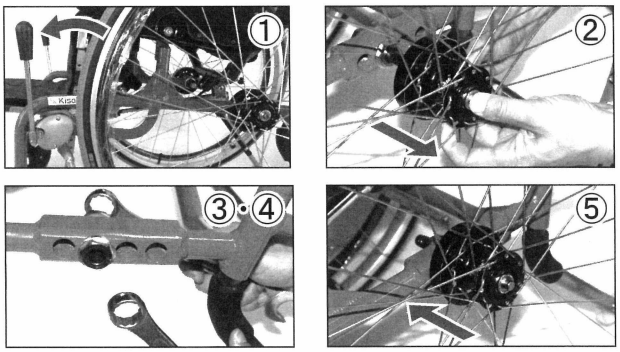
・取り付け方

ブレーキがかかってないことを確認してください。後輪の中央(ハブ)にあるピンを親指で押し込んだまま、外側からまっすぐに車軸ソケットへ差し込んでください。正しく差し込むと車軸の先端にあるボール(2箇所)が出て、車軸ソケットに引っかかるようにして固定されます。このボールがしっかり出てないと走行中に車軸が外れるおそれがあり大変危険です。使用前は、ボールが十分に出ていて抜き取れないことを確認してください。



- 後輪の脱着は、必ず平坦な場所でおこなってください。
- 本人が乗車したままの着脱は危険です。絶対におこなわないでください。
- 脱着の際は、指などはさまぬよう注意してください。
- お子様には絶対に着脱させないでください。
- 車軸ソケットを付けていない調整穴に差し込まないでください。
- 後輪を外した状態(転倒防止キャスターを後輪として)で使用しないでください。
- ブレーキがかかっていると後輪の着脱ができません。無理におこなうとタイヤ、またはブレーキが破損するおそれがあります。
- オプションのキャリパーブレーキ装着車の場合は、キャリパーブレーキが正常にはたらくことと効き具合を必ず確認してください。

●車軸位置の調整



漕ぎやすい位置に後輪(車軸ソケット)の前後位置を設定できます。一般的には、車軸位置を前方に設定すると漕ぎやすくなる反面、後方安定性は不足します。後方に設定すると安定性は増しますが、漕ぎやすさは損なわれます。また、ティルトやリクライニングの角度によっても漕ぎやすさや後方安定性は変化しますので、各部の設定を考慮して車軸位置の調整をおこなってください。

①ブレーキを解除してください。

②脱着方法にしたがって後輪を外してください。

③工具(スパナ)を外・内側からあて、車軸ソケットの外側のナットは固定したままで内側のナットをゆるめていきます。

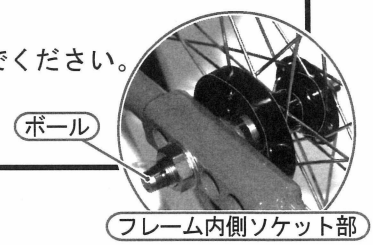
④車軸ソケット本体を抜き取り外してください。任意の車軸穴に車軸ソケットを差し込んだら、外側のナットを固定して内側のナットを締めてください。(締め付けトルク20N・m)

※車軸を前方に調整した場合は、ブレーキの固定ボルトをゆるめて一旦前へずらしておいてください。

⑤後輪を取り付けてください。後輪がゆるみなくしっかり取り付けられていることを確認してください。(下記注意事項を要確認)

⑥変更した車軸・タイヤ位置に合わせて、必ずブレーキ調整をおこなってください。

- 車軸ソケットの位置変更の作業は、取り扱い業者へご相談ください。
- 必ず締め付けトルクを守って締め付け作業をおこなってください。締め付けトルクが低ければゆるみや脱落の原因となり、高すぎれば破損するおそれがあります。
- 車軸ソケットの位置を変更した際は、後輪の車軸先端のボールが確実に飛び出ること、ならびにボールとナットに隙間が無いことを確認してください。隙間がある場合は、車軸の長さ調整が必要です。
- 後輪の着脱同様に、車軸位置の調整も平坦な場所でおこなってください。
- 本人が乗車したままの作業は危険をともないます。絶対におこなわないでください。
- お子様には作業させないでください。
- 左右異なる位置に車軸ソケットを取り付けないでください。

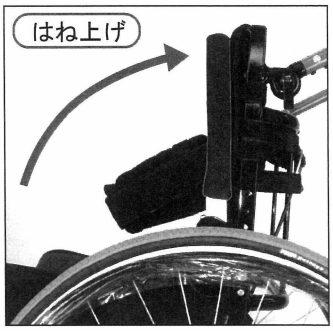


各部の取り扱い

●アームサポート金具

はね上げ開閉式のアームサポート金具です。側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。
下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階づつ11度刻みで角度が変更できます。アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。
※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。

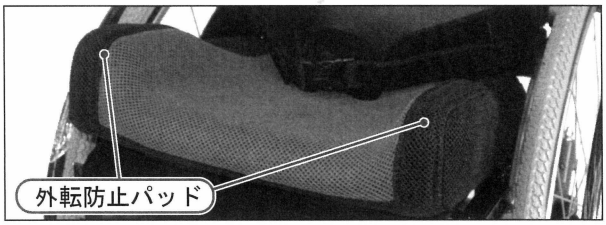


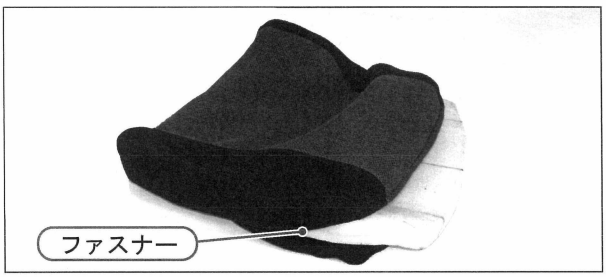


⚠ ・必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。

●座シートクッション

座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート(ウェッジ)と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調節をおこなうこともできます。カバーを洗濯する際は、後方のファスナーを開けて必ず中のウレタンクッションを取り出してください。





ⓘ ・決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。
ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。

●トランクサポートベルト・骨盤サポートベルト（オプション）

[トランクサポートベルト]

身体により近い、背シートのダブルファスナーからベルトを取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。長さと取付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)取り付けの際、高さを合せる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかり閉じてください。正面のバックルを「カチッ」と奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

[骨盤サポートベルト]

クッション性の高い腸骨パッド(左・右)によりベルトの当たりをやわらげ、またサポート力を高めるためにバックルの左右にあるマジックテープでベルトの締め加減の微調整をおこなうことができます。(この微調整はベルト装着後におこなうことも可能です。)ベルト全体の長さは、取り付け部のアジャスターで調節してください。



ⓘ ・処方上、必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
・ベルト類はバックルを「カチッ」と奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。

各部の取り扱い

●キャリパーブレーキ（オプション）

走行中や坂道でスピードを減速する役割のブレーキです。
ブレーキレバーは、強すぎる力で急に握りこむと後輪がロックしてスリップしやすくなり、またワイヤーを破損してしまうこともあります。タイヤがロックしない程度の力で操作してください。





・ロック付きレバーについて

キャリパーブレーキのレバーには、ブレーキをかけたままロックする機構が付いています。ブレーキレバーを握ったまま、人差し指でレバー前方にある銀色の金具を引いてロックをかけてください。キャリパーブレーキがかかったままで保持されます。解除するときは、ブレーキレバーを握ると自動的にロックが外れます。

※このブレーキのロック機構は、エッグブレーキと同等の効果を得るものではありません。補助的なブレーキ機構としてご使用ください。



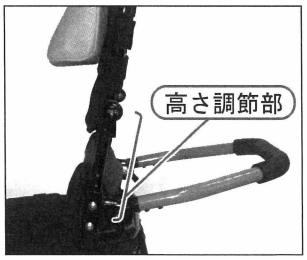


・キャリパーブレーキの効きが弱くなってきた、または左右の効きに違いを感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。
・お使いいただくなかで、キャリパーブレーキのワイヤーに伸びが生じると効き具合が変化します。効きがゆるくなってきたと感じた際は取り扱い業者へご相談ください。ワイヤーの長さ調節が必要です。

●延長用バックサポート（オプション）

頭部の支持が必要な場合に使用します。バックサポートの高さ調節と同様の方法で高さ調節がおこなえます。
また、クイックレバーによるダイヤルロック式の背折れ機構としており、延長バックサポートを後方へ折りたたむ機能とダイヤルロックの刻み位置により頭部の角度調節が可能です。



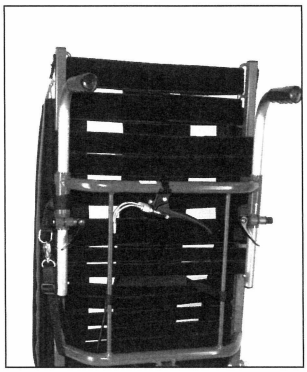


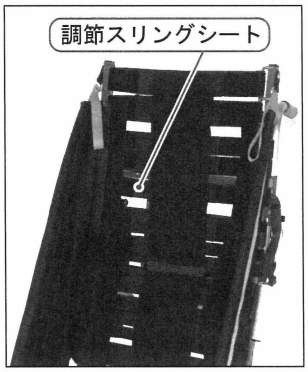




・折りたたみから開いたとき、または角度調節をおこなった際は、クイックレバーで確実に固定されていることを確認してください。クイックレバーのロックが不十分だと、急に後方へ折れ曲がるなどして首にダメージが加わるおそれがあります。必ずロックの確認をおこなうようお願いします。

調節スリングシートについて



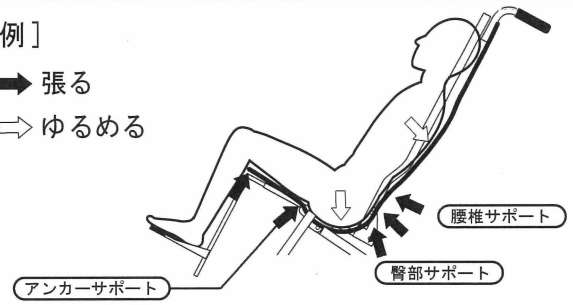


帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。
矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。

［調整例］

➡ 張る

⇨ ゆるめる



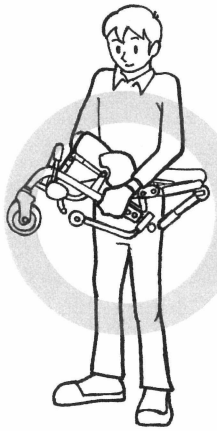
背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部)②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部)③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。
座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。

車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

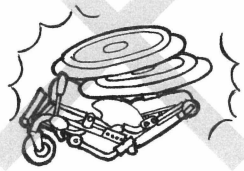
自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。



×押し手グリップやフットサポートなどフレームの一部のみを持たない。



○ベースフレーム全体を抱え持つ。



×積み重ねをしない。



×投げ込まない。

お手入れ・メンテナンス

・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。

・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。

・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。

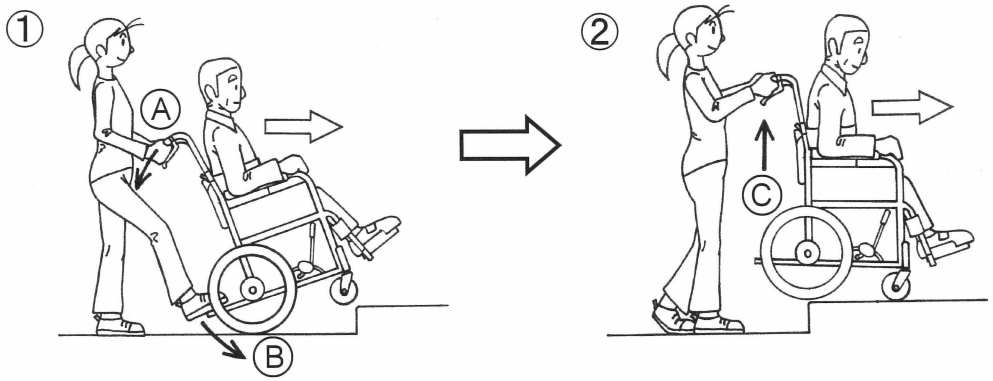
・インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。

・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。

・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

車いすの取り扱い

●段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

A. 両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・

B. ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

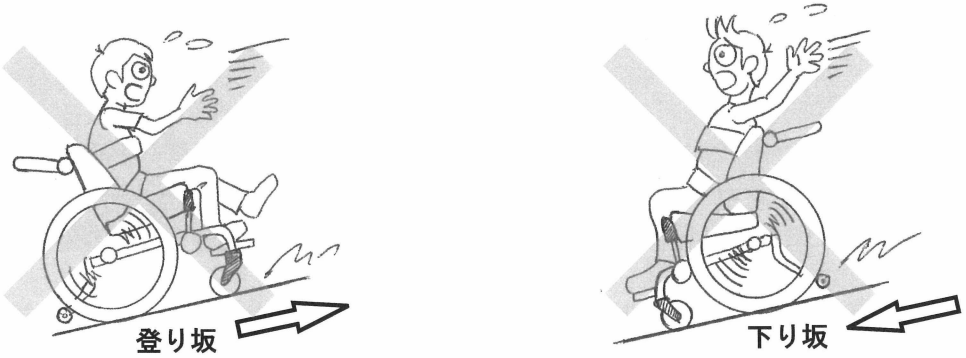
②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

C. 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。

> ・絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください！
> （前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。）

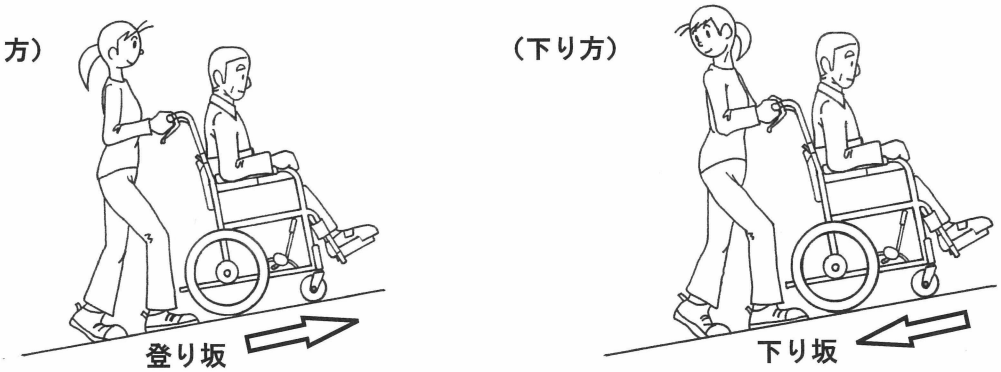
●坂道での走行や介助について

下り坂では思いがけずスピードが増して、また上り坂ではのぼりきれずにバックしてしまい転倒や事故になるおそれがあり大変危険です。
以下の「坂道での操作について」のようにスロープや坂道では介助者が同行して、いつでも補助できるよう注意してください。



●坂道での操作について

（登り方）　（下り方）



坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。

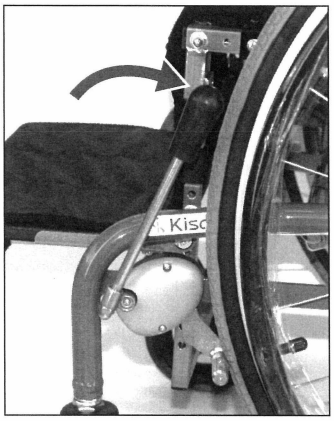
> ・押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

車への載せ降ろしの準備

- 操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- 傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- 操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

●積む前の設定・後輪の着脱

1



ブレーキ(左・右)をかけてください。

ロック確認!!

必ず手順に従って操作をおこなってください!
手順を誤ると不具合や破損の原因になります。

2



アームサポートをはね上げてください。

手ばさみ注意!

3



ティルト(またはリクライニング)をとまるところまで倒してください。

手ばさみ注意!

4



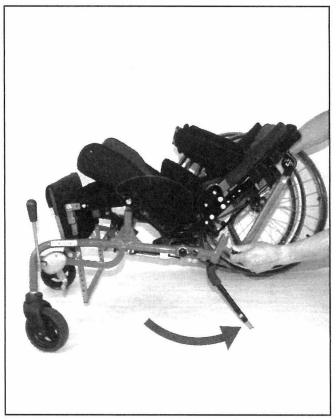
ボールピンを操作して前座を下げ、フットサポートを下げてください。



手ばさみ注意!

●降ろした時の設定・後輪の組み付け

1



転倒防止をセットしてください。
(5ページを参照)

必ず手順に従って操作をおこなってください。
手順を誤ると部品が正しく組み立てられないばかりか、破損の原因になります。

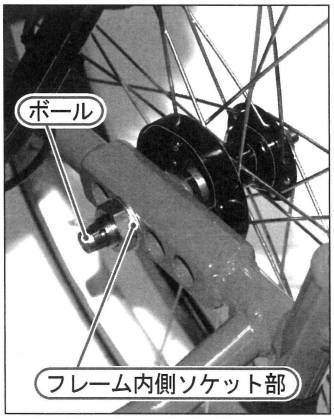
2



車輪中央ハブのピンを押し込んだままで、外側からまっすぐに差し込んで後輪を取り付けてください。
(6ページを参照)

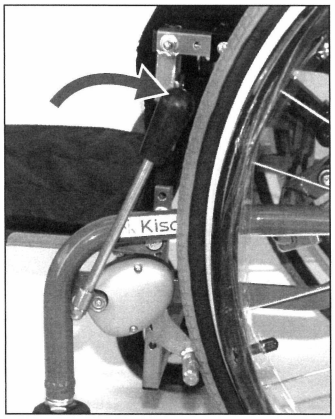
手ばさみ注意!

3



後輪をきちんと奥まで差し込まないと、走行中に車輪が外れることがあり大変危険です。フレーム内側より車軸のボールが十分に飛び出ていてしっかり取り付けられていることを確認してください。

4



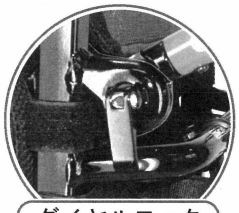
ブレーキ(左右)をかけてください。

5



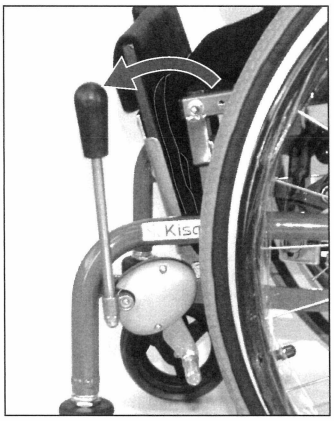
押し手グリップをたたんでください。(5ページ参照)

手ばさみ注意！



ダイヤルロック

6



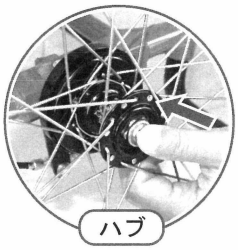
ブレーキ(左・右)を解除してください。

7



車輪の中央(ハブ)にあるピンを押し込んだまま、外側へまっすぐ抜き取ってください。
(6ページ参照)

(抜き取る方向を車軸からまっすぐにしないと、はずれにくくなります。)

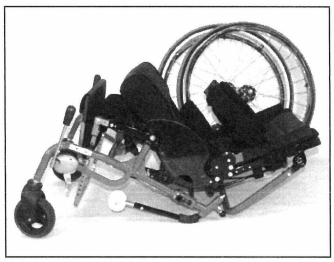


ハブ

8



転倒防止キャスターを前方へ折りたたんでください。
(5ページ参照)



5



前座を上げフットサポートを開いてください。

手ばさみ注意！

6



ティルト(またはリクライニング)レバーを握り適切な角度にセットしてください。

7



アームサポートを戻してください。

手ばさみ注意！

8



押し手グリップを押しやすい高さ・角度で設定してください。
(5ページ参照)

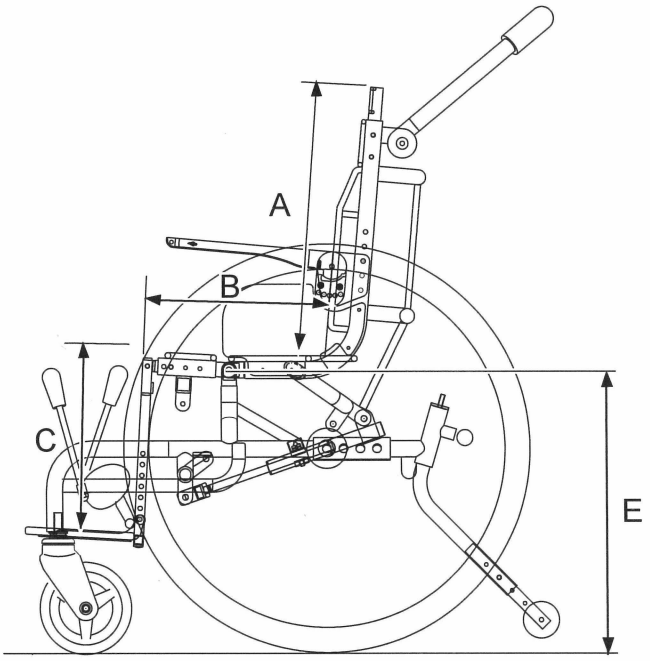


ダイヤルロック

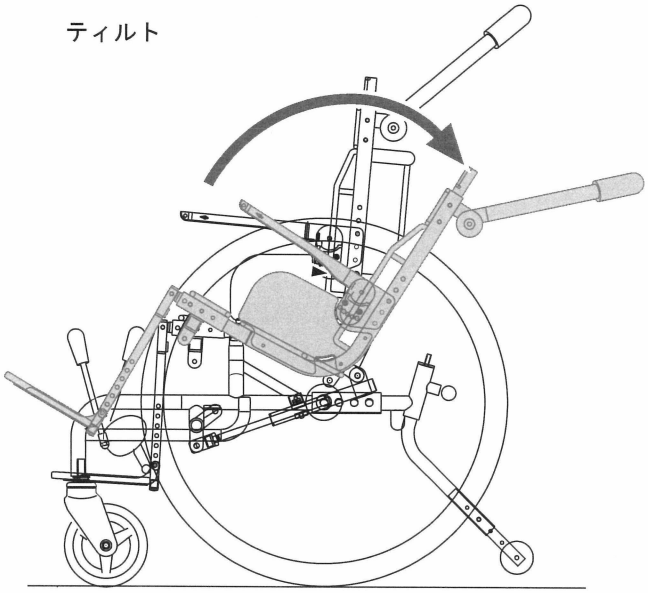
仕　様

		M (Lo)	M (Hi)	L (Lo)	L (Hi)
背 幅	mm	320	320	350	350
座 幅	mm	320	320	350	350
背 高 さ (A)	mm	365	680	420	730
座奥行き (B)	mm	250～300	250～300	290～360	290～360
足台高さ (C)	mm	150～240	150～240	180～270	180～270
支 点 高 (E)	mm	380	380	420	420
車体寸法(W×D×H)	mm	560×660×770	560×660×1085	580×740×860	580×740×1175
折りたたみ寸法(W×D×H)	mm	470×850×400	470×890×400	490×905×430	490×945×430
基本重量(シート重量含む)	kg	13.5	—	14.0	—
対応身長	cm	110～130		120～140	
調節スリングシート	材質	ナイロン100%			
シートユニット	材質	ポリエステル100%			

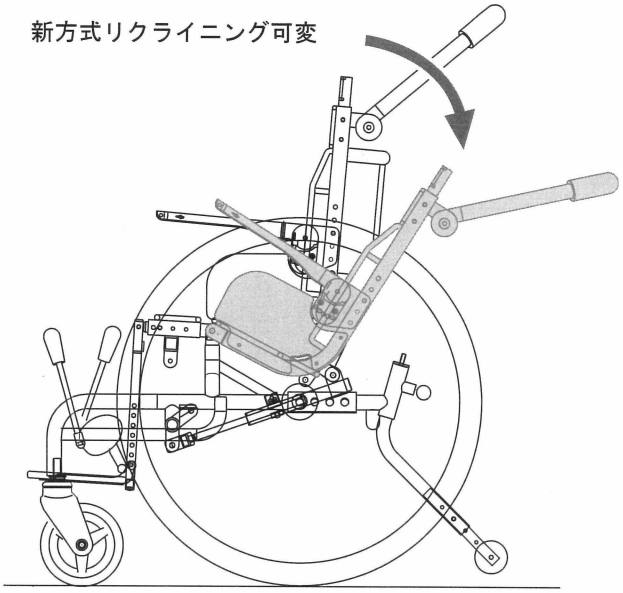
※基本重量＝基本的なシートユニットを取り付けた場合の重量



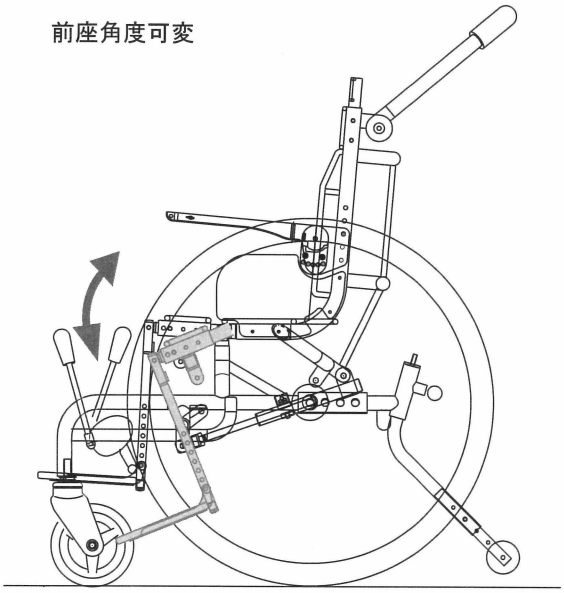
ティルト



新方式リクライニング可変



前座角度可変



取り扱い業者・連絡先

2017.5.24

製造・発売元　（株）きさく工房　福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11　TEL (092) 932-7600